

年間第18主日

第一朗読 出エジプト 16・2 - 4、12 - 15

第二朗読 エフェソ 4・17、20 - 24

福音朗読 ヨハネ 6・24 - 35

2021.8.1 高円寺教会

ジョン・ジュン神父（クラレチアン宣教会）

永遠の命は人間の夢！

先週、一人の信者さんがわたしに連絡してきました。少し話す必要があり、ミサの前に話しをしました。

彼は今まで日本に10年ぐらい住んでいますが、これからの人生をどう生きてら良いかと悩んでいました。

同じ仕事は長く、つまらないし、恋人もなくずっと一人で寂しい。

皆さんだったらこの人にどんなアドバイスをお勧めですか？ 何を言ってあげたら良いでしょう。考えてみましょう。

わたしが彼に言いたいのは、「人々にとって一番大切なのは、自分を知り、自分と向き合い、一人の時間にも喜びを感じ充実させること」です。でも、どうやってこの目標を達成できるでしょう。皆さんも考えてみて下さい。

職場と生活の習慣、そして趣味を養う。これらが出来たら、自分の未来も少しずつ変わって行きます。遠藤周作が言った通り、「人生には無駄なことはひとつもない、遊びを勉強の妨げになると言って切り捨てない」。自分を輝かせているとき、恋人は近くにいます。

基本的に人間はパン、食物によって命を維持します。問題は、このパンのエネルギーは短いということです。

しかし、神様からのパンによって、人は永遠の命を保つことができます。

第一朗読でイスラエル人が追求するのは食物です。食べ物にいつでも人間は満足できず、文句を言います。そして自分の奴隷の生活にさえ憧れ、昔の罪のある生活環境に未練があります。

人間が自由に追求するとき、誘惑と欲望は障害になります。イスラエル人はいつも食べ物を考えましたが、神様は彼らを罰することはしませんでした。それどころかパンとウズラを与えました。この贈り物は、イスラエル人の欲望を絶つことを鍛えるチャンスとなりましたし、厳しい砂漠も勉強のチャンスとなりました。

第二朗読はエフェソの手紙で、「古い人間を脱ぎ捨て」、外の世界から心の中まで新しくすることのプロセスです。

福音の中でイエス様に従っている群衆は、パン、食べ物と奇跡のために集まってきました。

先週の主日もパンについての話しでした。五つのパンの印は、モーセの五書です。そして、二つの魚の印は、預言者の説教と知恵の書です。

今日イエス様が強調する所は、このパンと魚がイエス様御自身だということです。この新しいパンは永遠の命を与えます。しかし、人々は本当のパンに満足せず、欲望に勝てず、奇跡もすぐに忘れてしまいます。

冒頭に述べた信者の生活も、自分に必要なこともわからない。実は、彼もパンを探しています。

どんなパンが未来に命をつなぎますか？ 詩編 42・2-3 に、「神よ、わたしの魂はあなたを求める。神に、命の神に、わたしの魂は渴く」とあります。神様のみ言葉はわたしに命を与えることができます。

最後に宿題は、今直面する問題、皆さんのご自分の生活の中で、心の中でどんなパンを食べていますか？ 例えば、つまらないとき、楽しくないとき、疲れるとき、家族関係、問題のあるとき、病気のとき等； どのように解決しますか？